

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）基本構想について

1 テーマ 人と湖沼の共生 ―持続可能な生態系サービスを目指して―

2 趣旨概要

人が湖沼と共に生きていき、生態系から得られる恵みである生態系サービスを将来にわたって持続的に享受するためには、どのようなことに取り組むべきなのかを、住民、農林漁業者、事業者、研究者、行政など湖沼に関わりを持つ全ての人々が、情報の共有、意見交換を行う。

3 会議の概要

- (1) 主催者 茨城県、公益財団法人国際湖沼環境委員会（ILEC）
- (2) 共催・後援 国、流城市町村、大学、研究機関、市民団体等
- (3) 会期 平成30年10月15日（月）～19日（金）
- (4) 会場
メイン つくば国際会議場
・開閉会式、基調講演、分科会、政策フォーラム等
サテライト 霞ヶ浦流域や涸沼沿岸等の拠点施設
・環境関連行事
- (5) 会議構成 基調講演、分科会、政策フォーラム、霞ヶ浦セッション、湖沼セッション、学生（青少年）会議、いばらき霞ヶ浦賞授賞式、展示会、エクスカーション等
- (6) 会議の公用語 英語及び日本語
- (7) 参加者・規模 市民、研究者、企業、行政担当者 4,000名
- (8) 参加料 有料
- (9) 会議テーマ
 - I 生態系サービスの現状と課題
 - ①生物多様性と遺伝資源
 - ②淡水資源の確保
 - ③湖沼の水質と浄化機能
 - ④水辺や地域の文化
 - ⑤流域活動と物質循環
 - II 持続可能な生態系サービスに向けた取組
 - ①科学的知見に基づくモニタリング
 - ②持続可能な生態系サービスに向けた対策・技術
 - ③統合的湖沼流域管理（ILBM）

【世界湖沼会議について】

富栄養化など湖沼や貯水池をとりまく環境問題について、世界各国の研究者、市民、行政担当者等が一堂に会して情報と経験の交流を図る場として、昭和59年（1984年）に滋賀県で始まったもの。